

令和元年度中学校武道授業（相撲）指導法研究事業



検討協議の様子

令和元年度中学校武道授業（相撲）指導法研究事業（主催＝日本武道館、日本相撲連盟、後援＝スポーツ庁）は1月18～19日の2日間、日本相撲連盟会議室で研究者8名が参加して行われた。本事業は、中学校武道必修化の充実に向け、指導計画、指導内容、指導法、評価等について、教育効果の上がる武道・相撲授業の研究を目的とする指導法研究会である。今回は昨年10月に徳島県徳島市川内中学校での開催に続いて本年度2回目の開催であり、第6回全国相撲指導者研修会の成果と次回に向けての課題について協議が行われた。

■ 1日目（1月18日）

◇開講式



安井和男 専務理事

昨年、平成から令和となりましたが、気持ちを新たに、新学習指導要領を念頭に置き、指導法を検討していただきたいと思っています。充実した研究協議となるよう、ご協力よろしく願いいたします」と述べた。

開講式では、安井和男日本相撲連盟専務理事が挨拶に立ち、「本日はお足元の悪い中、中学校武道授業指導法研究の為にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

続いて、中島昭博日本武道館振興課長が「昨年の全国相撲指導者研修会で実践例発表をしていただいた熊本県の長浦先生は相撲経験がありませんでしたが、本研修会で学んだ後、相撲を授業で採用していただきました。



中島昭博 振興課長

このように相撲の経験がない先生も全国指導者研修会で学んだ経験を活かし、授業で相撲を教えることができたのは、本研究事業の成果のひとつではないかと思います。全国指導者研修会に参加される先生方の指導力向上が図れるよう研究していただくとともに、外部指導者の指導を想定した授業案の研究等、次年度の展開が練られるようお願い申し上げます」と挨拶を述べた。

続いて、研究者を代表して桑森真介^{まさすけ}研究者が、「本研究事業で全国指導者研修会の成果と課題、また、効果の上がる相撲授業についてしっかり研究協議をしていただきたいと思います」と述べた。

◇研究協議 I

開講式に続いて、堀内^{わたる}弥研究者の司会・進行のもと、昨年11月に行われた第6回全国相撲指導者研修会について、報告書の内容、文言、文章表現等の確認作業が行われた。

◇研究協議Ⅱ

参加者の感想文を確認後、次年度の研修会に向け、日程、各講義内容、実技研修の進め方、時間配分等について、参加者のアンケートを参照しながら検討協議され、以下の方向性が固まった。

- ①講義は、新学習指導要領を念頭に置きつつ、内容のスリム化を図る。
- ②実践事例紹介は、参加者からも良い評価を受けており有意義であった。今後も充実したものとなるよう準備・計画をする。
- ③実技研修は、経験者と未経験者で意見が分かれるが、基本動作の重要性を考え、それぞれにとって最適な方法を引き続き検討する。
- ④指導案作成の時間は、十分に取れていた。基礎的なテーマ（礼法等）を始めに行う。
- ⑤中学生に対する指導実践は、貴重な体験の場となる。学生と教員との交流も深まり、大変有効であるため、継続して実施する。また、今後も責任観察班を置くと同時に自班の観察も行う。
- ⑤審判法は例年盛り上がり、試合を楽しんで行っているが、武道の精神である「礼」を確実に伝えるよう指導する。

■ 2日目 (1月19日)

◇研究協議Ⅲ

みつどめきゅうま
満留久摩研究者の司会・進行のもと、前日の研究協議内容を振り返りながら、更に踏み込んで内容を検討し、第6回全国相撲指導者研修会の総括が行われた。

- ①実践研究Ⅰ（実技研修）：簡易試合の前までは経験者と未経験者で分けて研修を行う。
- ②実践研究Ⅱ：指導の流れは以下の通り。
礼法→中腰の構え→運び足→押し→寄り→崩し
- ③実践研究Ⅲ：特に礼法の指導を徹底する。
- ④研修が充実したものとなるよう班ごとに食事をとり、情報交換・交流を図る。

◇研究協議Ⅳ

はじめに、次年度実施する第7回全国相撲指導者研修会の開催要項、日程について、内容・文言

等の検討が行われた。その後、参加者の募集方法について協議し、日本相撲連盟のホームページと全国中学生大会（プログラム掲載・監督会議でのアナウンス）で告知することが決定された。



続いて、『相撲の手引き』について、新学習指導要領に準拠し、必要な修正を行う（夏頃迄に原案作成）基本方針が確認された。その後、日本武道協会発行予定の『少年少女武道指導書』の内容についても検討し、共通理解が図られた。

閉講式では安井和男日本相撲連盟専務理事、中島昭博日本武道館振興課長がそれぞれ主催者挨拶を行い、全日程が終了した。

◎安井和男研究者（日本相撲連盟専務理事）

少子高齢化に伴い、子どもの社会が作り難い世の中になっていますが、武道により人間を大切にする社会づくりに貢献できればと思います。

◎浦嶋三郎研究者（日本相撲連盟常務理事）

全国指導者研修会の成果と次回への課題について充実した議論ができたと思います。

◎桑森真介研究者（日本相撲連盟中学校相撲授業指導法研究委員会座長）

『相撲の手引き』、『中学校武道必修化指導書』の作成等、本研究事業の成果が着実に表れてきていますが、次年度以降も皆さんのご協力を仰ぎながら成果を出していきたいと思っています。

◎安藤均研究者

全国研修会を振り返り、安全管理の大切さを改めて実感いたしました。相撲が身近なものとなるよう微力ながら頑張っていきたいと思っています。

